



友愛の森(二中だより)

1月号

学校教育目標 二中文化を創造する生徒
品格のある『学校風土』時を守り 場を淨め 礼を正す
平成31年1月8日発行



明日への夢を追求めて

校長 大崎 悟

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

平成30年11月14日、元サッカー日本代表のゴールキーパー川口能活選手が現役引退の記者会見を開きました。プロ生活25年、引退を決断してこの日を迎えた気持ちについて聞かれると、次のように話しました。

やり遂げた気持ちと、まだできるというか、身体はすごく元気なので、完全燃焼したかといえば、まだ“余力”はあります。ただ、自分がピッチ上でもピッチ外でも、常にベストを尽くしてきてこの決断に至ったので、後悔はしていません。今の日本代表は、僕が代表でプレーしていた時よりも上のレベルで世界と戦える日本代表に成長してきています。今後は、自分の経験したことを生かし、選手としてではなく指導者として日本サッカー界に貢献したいと思い、引退する覚悟を決めました。

川口選手は富士市天間の出身で、「キャプテン翼」にあこがれて9歳でサッカーを始めました。その後、東海大学第一中学校、清水市立商業高校とサッカーの名門校に進み、青春のすべてをサッカーに捧げてきました。平成5年度全国高校サッカー選手権大会では、キャプテンとして清水市立商業高校を全国優勝に導いています。高校卒業後は、横浜マリノスで念願のJリーガーになり、正ゴールキーパーとしてチームのJリーグ制覇に貢献、個人としても新人王を獲得しました。さらにその後日本代表に選出され、ゴールキーパーとして長い間日本のゴールマウスを守り続けました。

静岡県は、以前からサッカー王国と呼ばれ、中山雅史、名波浩、小野伸二、高原直泰、長谷部誠、内田篤人など、数え切れないほどの日本代表選手を輩出してきました。川口選手は、その中でも一際輝く存在で、4度のワールドカップ出場、アトランタオリンピック出場、アジアカップ2度優勝など、多くの栄冠をつかみました。常に大きな夢を追求め、具体的な高い目標を掲げ、その目標を次々と実現してきたのです。次は指導者として日本サッカー界の発展に努めようと決意しています。

◇◇ 夢なき者に目標なし 目標なき者に計画なし

計画なき者に実行なし 実行なき者に成果なし ◇◇

中学生の場合、成果を成長と置き換えることもできるでしょう。中学校時代は、この教訓に素直に向き合うと、心も、体も、頭(知力)も、どんどん成長していきます。川口選手のように次々と「夢や目標」を実現することは難しいかもしれませんが、まずは、自分の夢を見つめ、「今年はどういう一年にするぞ」という個人の目標を掲げ、計画、実行、成長とつなげていってほしいと思います。

・・・・・・ところで、あなたの夢は何ですか？